



AMCO

CaseReport

Specialists in the importing and marketing of USA and European medical and scientific products in Japan.

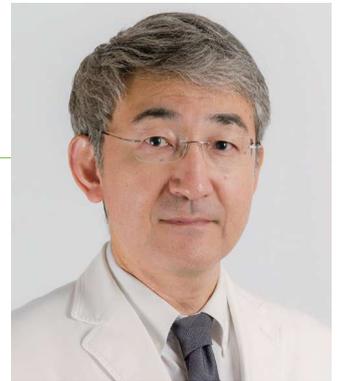
2022.03

32

サクシオンボール・コアギュレーターを駆使した 腹腔鏡下大腸癌手術

岩手医科大学 医学部 外科学講座 准教授
がんセンター がん相談支援センター長

大塚 幸喜 先生



ご所属は2022年3月当時の情報です。

【学歴】

1993年 岩手医科大学医学部 卒業

【職歴】

1993年 岩手医科大学 第一外科入局 医員
2001年 岩手医科大学 第一外科 助手
2002年 大阪医科大学 一般・消化器外科 短期研修
2007年 岩手医科大学 外科 講師
2016年4月 岩手医科大学 外科 特任准教授
2016年4月 岩手医科大学 がんセンター がん相談支援センター長
2019年2月 岩手医科大学 外科 准教授

【所属学会】

日本外科学会 認定医 専門医 指導医
日本消化器外科学会 認定医 専門医 指導医 評議員
日本大腸肛門病学会 専門医 指導医 評議員
日本内視鏡外科学会 技術認定医 評議員
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 認定士 評議員
日本がん治療 認定医
日本ロボット外科学会
大腸癌研究会 施設代表者
腹腔鏡下大腸切除研究会 理事
da Vinci Robot surgery 術者certification



■ はじめに

腹腔鏡下大腸癌手術は、膜剥離・腸管授動・リンパ節郭清手技が中心であり、使用するエネルギーデバイスとしては主に超音波凝固切開装置とスパチュラ型電気メスを併用した手技が一般的である。さらに、剥離・授動面からの小出血や郭清中の血管損傷による大出血に対応するための凝固止血エネルギーデバイスも欠かせない必須アイテム

である。私の場合、サクシオンボール・コアギュレーター(以下、SBC)を好んで使用しており、現在では腹腔鏡手術に限らず、ロボット支援下直腸手術にも常備されている必須デバイスとなっている。本稿では、大腸癌手術におけるSBCの有用性について紹介する。